

令和4年度全国高等学校総合体育大会 「審判員報告」

C2 女子審判長

大森 智子

1. 採点上打ち合わせた事項

(監督会議での報告事項も含む)

①審判員の変更

大会直前にコロナウイルス感染および濃厚接触者となり大会従事が難しくなった審判が出たため、全国高体連体操専門部委員長ならびに関係各所との協議をもって急遽審判編成の変更を行った。補審2名を種目の審判に変更し、さらに新たに2名審判を補充し、そのうち1名を種目審判に、もう1名を補審に充てた。

②適用規則の確認

採点規則2022年版変更規則I、女子体操競技情報31号及び高体連制定の高校適用規則を適用する。

③採点指針の確認

2022年採点指針に則り、美しい姿勢での演技を採点の最重要項目とすること、技の姿勢欠点はもちろん演技全体を通して身体の姿勢や足先の美しさに欠ける演技は厳密に減点し、美しい姿勢での演技との差を明確化させる。

④D スコアへの問い合わせについて

まずは直接 D1 審判へ口頭で質問をし、意見の相違がある場合は書面を審判長に提出する。問い合わせの時間に関しては、基本的には次の種目に移動するまでの間、最終演技者については、次の種目のウォーミングアップの時間内に対応をすること。検証用のビデオはないため、再検証はできないことの確認。

⑤練習時間について

【予選】 1組最大6名 (チーム4名+個人2名)

VT : 1人2本

UB : チーム 3分20秒、その後 個人2名 各50秒

BB : チーム 2分、その後 個人2名 各30秒

FX : 3分

【決勝】 1組最大4名

VT : 1人2本

UB : チーム 3分20秒:個人 各50秒

BB : チーム 2分:個人 各30秒

FX : チーム・個人ともに 1組2分30秒

⑥不適切なマグネシウムの使用について

炭酸マグネシウムを撒き散らすような行為やマットやカーペットに足で擦り付けた

り、助走路に炭酸マグネシウムで大きくラインを引いたりするなど容易に復元できないような行為は違反となり、減点対象となること。助走路に印を付けたい場合は、テーピング等復元可能な方法で代用し、演技後は必ず使用したテープを剥がすようにすることの確認。

⑦出血の対応について

出血があった場合には、血液を直接素手で処置することなく速やかに競技スタッフまたは救護係へ連絡をすること。競技の進行に関わる場合は D1 審判へ申し出ること。また、もともと傷があるような場合には競技中に出血しないように事前にテーピングなどで対応することを依頼。

⑧競技中の演技台での練習はできないことの確認

国内競技会ではマット上が演技台となるため、助走路を含むマット上での練習は演技中、採点中はできないため再度選手へ注意喚起を促した。

⑨演技中のコーチの行動について

採点規則にはコーチの行動の違反項目として「合図、かけ声、応援等でコーチが自分の選手を援助する」という減点項目がある。演技中に選手への指示や応援と見られるかけ声、拍手などは控えていただくよう監督へ促した。

2. 採点上起こった事項とその処理

①火災報知器の発動および停電による競技中断

予選 1 日目最終班 3 種目目の途中、落雷の影響で突然体育館の照明が切れ、火災の緊急一斉放送が館内に流れた。幸いなことに女子はすべての種目採点中で演技をしている選手は誰もいない状態であった。緊急放送は落雷による誤作動であることがわかったため、照明の復旧がされるまで選手はマット上に寝転んだりストレッチしたり楽な状態で待機するようにした。競技再開までに 40 分ほど中断することとなった。女子は 3 種目目の途中であったため、3 種目目の演技をしていない選手に、再度ウォーミングアップの時間を与え、競技を再開させた。

②演技中のコーチのかけ声（合図）

演技中に選手への指示となるようなかけ声や応援と見られるかけ声、拍手をする監督がいたため口頭注意にて対処した。（複数件）

③スコア修正について

今回の会場記録については、E 審判が各々のスコアをジャッジペーパーに記入し、セクレタリーが PC に入力をする方法であった。複数件単純な入力ミスがあり、得点表示後得点を修正。該当の監督に得点の修正を報告。

④競技途中の怪我について

競技中の怪我の際、即病院に搬送しなければならないような状態であった場合、高体連体操専門部委員長の承認を得て、その後の演技は棄権ではなく「0.00」として扱うこ

とができるという特別ルールが高体連の競技会では適用されている。予選2日目、選手が段違い平行棒の着地に失敗し、膝を負傷。即担架で運び病院へ搬送することとなったため、その後の3種目は「0.00」の対応をすることを、全国高体連委員長に確認、承認を得て3種目のD1へその旨伝達をした。

⑤器具の不具合について

予選2日目第11班で、選手が終末技を実施した瞬間平均台の端にある保護用のゴムが外れて飛んでしまった。即業者に対応をしてもらおうが、競技中で応急措置しかできなかったため、その後も複数回外れてしまう状態が続いた。競技直前の3分アップ中に1度外れてしまったため、応急措置をするまでの間、アップ時間を一旦止めて、措置後残りの時間のアップをしてもらおうようにした。予選2日目終了後は業者にしっかりと止めてもらうように要請した。

⑥跳馬の助走路について

助走路の25mラインを示すブロックが、競技中に何回か剥がされて少し後方へ移動されていた。会場係が気がつき、その都度直しに行ったが、審判席からはどの県のどの選手がそのような行動をしているのか把握するのは難しく、審判が気がつかないまま25m以上助走してしまっている選手がいたと思われる。助走距離が25m以上となった場合は減点対象である。選手には規則を守って競技に臨んでもらうよう今後注意喚起をしていきたい。また、現在のブロックは容易に剥がすことができるため、今後、器械器具業者とも協議をし対策を検討していきたい。

⑦グリーンライト点灯後30秒以内に演技を開始しない減点について

グリーンライト点灯(D1が緑の旗を上げる)後、30秒を過ぎても演技を開始しなかった選手がいたため、グリーンライト点灯後30秒以内に演技を開始しない減点を適用した。

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会は、コロナ禍の中での開催ではあったものの、参加選手、監督をはじめ関係者の皆様のご尽力によりすべての競技を無事終えることができました。先述したとおり、競技中落雷の影響で一時競技を中断せざるを得ない事態が発生してしまい、競技中の選手、監督の皆さんにはご負担を強いることとなってしまいましたが、皆様のご理解ご協力により事故等に発展せず無事競技を再開することができました。採点業務についても、タイトなスケジュールではあったものの、特に問題なくスムーズに業務をすることができ、予定されている時程に遅れることなく進めることができました。今年度は、得点集計システムに問題となる不具合は発生せず、担当者の皆さんが競技中に迅速なサポートをしてくださったことがスムーズな業務に繋がったと思います。関係者各位に改めて感謝申し上げます。

今大会で、選手の演技を見て感じたことは、技を成功させることや予定されているDスコアの獲得ばかりに気を取られ、技を実施している時の姿勢や立ち姿勢、歩く時の姿勢を気にかけていない、もしくは気にかけることができない選手が非常に多くなっているとい

うことです。大会に出場し、実施した技を成功させることができるか、難度を承認してもらえるか、予定している D スコアを獲得することができるか、そういうことを考えることは当然のことだと思います。しかし、技を成功させることや難度承認のことばかりに気を取られ、技を実施している時の姿勢はもちろん、立っている時の姿勢や歩く時の足先など基本的な動作の姿勢を疎かにしては、最終的に高得点には繋がりませんし、競技力の向上、発展には繋がりません。これは、出場したどの選手にも言えることです。予選を通過できなかった選手、決勝に進出できた選手、上位入賞した選手、すべての選手に当てはまります。選手、コーチの皆さんには今後も技の習得に力をいれると同時に姿勢欠点のない美しい姿勢で演技することを目指して頑張ってくださいたいです。そして、この場をお借りして各都道府県、各ブロック大会を支える審判の皆さんにも、採点指針で掲げている「常に美しい姿勢での演技」を今後も採点の重要項目としてどの大会においても美しい姿勢の演技を評価することをお願いしたいと思います。来年度、全国の高校生が皆美しく輝いた演技を披露してくれることに期待をしています。

C 2 (跳馬)

D 1 審判員 木村幸代

1. 採点上打ち合わせた事項

採点指針(情報31号)に則り「D スコアの高い跳躍技」「高さや距離を伴うスピード感のあるダイナミックな跳躍」の2点を重視し、各審判が各技の理想像を持って採点を行うことを確認した。ダイナミックさに欠ける跳躍や、各局面において著しい技術不良が見られる跳躍には、規則集第8章の「一般欠点と減点表」、第10章跳馬「種目特有な実施減点」の項目に則り厳密に減点をし、E スコアにて明確に差をつけることも確認した。

変更規則Iでは「グループ1の跳躍技のみ」に適用される減点項目があるため、その確認も行った。

- ・「(追加) 支持局面・支持が長い 0.10/0.30/0.50」
- ・「(変更) 第2空中局面・ダイナミックさに欠ける 0.10/0.30/0.50」

また線審とは、任務内容(境界線の踏み越しの判定、練習回数の確認)と、コーチからライン減点の再確認の要求があった際の対応(過失の記録)について確認をした。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・演技開始の合図(旗を上げる)前に跳躍を実施した選手がいたため、「合図がないのに演技を開始する 0.00」と判断した。
- ・演技開始の合図(旗を上げる)があっても演技を開始しない選手がいた。合図のあと演技開始までの時間は決められていることから、選手自身が事前に演技順の確認をして欲しい。「グリーンライトの点灯後30秒以内に演技を開始しない -0.3」を適用した。
- ・ウォーミングアップが終了したことを線審が伝えた際、選手・監督から戸惑った様子を

感じる事が複数回あった。それは練習回数の数え方を理解していないためと思われる。「跳躍後、直ちに台上に立ち宙返りを行う」ことは「2回の試み」となる。また、たとえ器械に触れていなくても「助走路上で走る（公式な1本目のウォーミングアップ前に跳馬と反対方向に助走路を走ることは除く）」ことは「1回の試み」となるため、理解しておくことが必要と思われた。

- ・跳躍技番号の表示を忘れる選手が複数いた。次の跳躍前に選手・監督に声をかけ表示をお願いしたが、選手の責任として、跳躍を開始する前には忘れずに表示することを心掛けて欲しい。また、難度表に記載のない跳躍技番号を表示する選手もいたが、事前の確認をお願いしたい。
- ・助走路の端に置いてある距離を示すブロックが、複数回後方に移動されていた。適切な器械の使用とともに、日頃から決められた助走距離（最大25メートル）で練習する習慣をお願いしたい。
- ・オーダー用紙の記入・提出に際し、対応の必要なことが複数件あった。持参忘れ・他種目の用紙の提出、記入方法の間違い等は、競技の進行や選手の演技に支障をきたすため、事前の確認をお願いしたい。

3. その他特記事項・意見・感想等

2022強化指針にも掲げられているように、パリ・ロサンゼルスオリンピックに向けてはもちろんのこと、すべての選手において「跳馬のDスコアアップ」は目指すべき課題と言えます。習得には時間を要するものではありませんが、各選手が「跳躍の理想像」を持ち、練習を重ねて欲しいと願います。

採点指針においても「Dスコアの高い跳躍技の実施」が評価項目に掲げられているとはいえ、今大会では著しい技術不良の跳躍も目立ちました。第1空中局面での膝の曲がり・脚の開き、第2空中局面での宙返りの不正確な姿勢、着地での姿勢の欠点などがあげられます。闇雲に高いDスコアを狙うことを推奨している指針ではありませんので、跳躍の各局面においても、体操競技の基本となる姿勢の美しさを追求して欲しいと思います。宙返りの姿勢、緩みのない膝・つま先といったものは、基本技の習得時から選手自身が意識することで身につくものでもあります。それらを大切にしたいうえで、着手から突き上がりのある雄大でダイナミックな跳躍を期待します。

また、怪我をしてしまうのではないかと心配される実施もありました。明らかに未完成的な技に挑戦することが望ましいとは思えません。今後の選手生命のためにも見合わせる判断も必要ではないかと考えます。

上記2「採点上起こった事項とその処理」にも記載したように、今大会、競技中に様々なことがありました。競技中の説明や注意は、演技にも支障をきたすかもしれませんし、時には減点という形で対応しなくてはなりません。練習の成果を存分に発揮するためにも、選手自身が規則を知る努力をして欲しいと切に願います。すべての選手の今後の活躍を期待しています。

C 2 段違い平行棒

D 1 審判員 針谷美智子

1. 採点上打ち合わせた事項

①採点指針の確認（情報 31 号）

- ・腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- ・技の振幅が大きいダイナミックな演技
- ・多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成

②E 審判団の確認事項

各審判員が採点指針をもとに演技の理想像をもち、指針に沿わない演技は、減点項目のいずれかから減点すること、採点指針をもとに、どのような演技が求められているのかを理解した上で採点を行うことを確認した。特に、け上がり、振り上げ倒立、車輪などの基本技の姿勢に注視し、欠点のある実施に対しては厳密に減点すること、体線の美しい演技とそうでない演技を E スコアにて明確に差をつけることを確認した。さらに、技の特性や難易度を考慮し、演技の質、技の質がスコアに表せるような採点をすることを確認した。

③短い演技についての確認

「短い演技」と D 審判団が判断をした場合は、技の実施数により E スコアの最高点が変わるため、その都度承認した技数を E 審判団へ口頭にて伝えることを確認した。

④アシスタント任務の確認

計時の任務内容（個人・チームの練習時間の計り方、中断時間の計り方）を確認した。特に、落下による中断時間については、時間の経過を知らせること、終末技で足から着地できなかった場合は、立ち上がった時から落下時間を計測すること、選手が落下時間の計測を開始することを避けるために故意に立ち上がらない場合の対応について確認した。さらに、コーチから計時の減点の再確認の要求があった際に速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

終末技の着地にて、追加のマットよりも手前に着地した（追加の着地マットを使用しない）選手がいたため、規則に則り、最終スコアから 0.50 の減点をした。

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会、予選で実施された全 266 演技のうち、D スコアが 5.0 以上の演技が 34 演技（12.8%）、4.5 以上 5.0 未満が 51 演技（19.2%）、4.0 以上 4.5 未満が 24 演技（9.0%）、3.5 以上 4.0 未満が 24 演技（9.0%）、3.5 未満が 133 演技（50.0%）でした。E スコアでは、8.00 以上

のスコアを獲得できたのは、24 演技 (9.0%)、7.50 以上 8.00 未満が 15 演技 (5.6%)、7.0 以上 7.5 未満が 38 演技 (14.3%)、7.0 未満が 185 演技 (69.5%) でした。高い D スコアを獲得するために、より難度の高い技や組み合わせ技に挑戦している選手もおり、たいへん頼もしく感じられた一方、身体の姿勢の美しさに欠ける演技、完成度の低い演技や技の実施が非常に多かったように思います。特に、け上がり、振り上げ倒立、車輪といった基本技では、足先まで意識が行き届いている演技と実施するたびに膝やつま先の緩みがみられる演技の差がはっきりとみられました。例えば、け上がりでは、脚を持ってくる際の膝やつま先、身体の伸びや腕の曲がり、振り上げ倒立では、倒立姿勢だけでなく、脚を後方へ振り上げる際の膝やつま先、身体の反り、車輪では、低棒を通過する際の膝やつま先などに意識を運び、美しく伸びた体線での正確な技の実施を目指していただきたいです。

また、後方浮支持回転倒立 (C) や後方足裏支持回転倒立 (C) などの技では、正確な実施ができる選手であっても、振り上げ倒立では、倒立局面まで到達せず、不正確な実施となる選手も多くみられました。D スコアには、直接関わらない技であっても姿勢欠点があれば減点が伴います。D スコアの向上ばかりにとらわれず、演技の最初から最後まで、どの瞬間においても欠点なく美しい体線で演技ができているかということも意識して練習に励んでいただきたいと思います。

C 2 平均台

D 1 審判員 尾西奈美

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 採点指針の確認 (情報 31 号)

演技全体として「膝・つま先の緩みがなく手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技」「欠点のない正確な技の実施」を最重要項目とし、平均台の3つの指針を確認、演技全体として完成度の高い、立ち姿勢、つま先・指先まで意識された美しい演技を評価することを確認した。ダンス系の技の不正確な実施に対しては、「身体の姿勢の減点」「正確さ」の減点を厳密に減点すること、芸術性と構成の減点項目の確認、全体を通して身体の姿勢が悪い、大きさ不十分、つま先が伸びない、足が緩む、足が内向き、演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、指針に沿った演技とそうでない演技をEスコアにて明確に差をつけることを確認した。

(2) 変更規則適用時の確認

前向きでない構成の減点、D2 審判とは、終末技ボーナスの確認、構成要求、A 難度として認められる要素の確認等を行った。

(3) 短い演技についての確認

「短い演技」と判断した場合は、D1 審判は承認した技の数を E 審判団に口頭で知らせる旨伝えた。

(4) アシスタント任務の確認

計時の任務内容（予選・決勝の練習時間の計り方、演技時間・中断時間の計り方）を確認した。また、セクレタリーにおいては、システム上の確認、ジャッジペーパーの入力、データの確認等、念入りに行った。

（5）審判業務における心構え

最初の選手から最後の選手まで、公平公正な採点をし、慌てることなく常に冷静な状況で慎重な採点をするを周知した。

2. 採点上起こった事項とその処理

セクレタリーが選手の表示を間違えて入力してしまい、監督に指摘され速やかに訂正した。予選 1 日目の最終班、雷が落ちて試合が中断、選手の対応について、審判長からの指示が迅速に行われたため、審判員、選手、コーチも慌てることなく行動ができた。優先順位は選手に不安な思いをさせない指示や言葉を伝える事が大事だと感じた。

予選 2 日目、選手が終末技を蹴った瞬間、平均台の端の金具が外れ、飛んでいった。先ず選手に怪我はなかったか確認、大事に至らず良かった。その後、審判長に知らせ、セノーさんが対応。会場練習の時から器具の点検等も念入りに行う必要があると感じた。

3. 大会の所感

今大会においては、ルール改訂に伴い、ダンス系の技や組み合わせ点やシリーズボーナスを獲得できる構成に挑戦している選手が多く見受けられた。しかし、未完成な技も多く、予定していた D スコアに満たない選手もいた。また、開始技や終末技で D 難度や E 難度の技を実施する選手も以前より増え、多くの選手が高い D スコアの獲得を目指した演技構成に積極的に取り組んでいる印象であった。一方で、ダンス系の技の不正確な実施も多く見受けられた。特に輪とび系・横向きの 1/2 ひねりを伴うジャンプで、承認できないと判断した実施もあった。ダンス系の技は不正確な実施により承認要求が満たされない場合、異なる技と判断される場合が多く、その結果、同一技の繰り返しとなり難度点や構成要求を獲得できなくなる場合も多い。この場合は、構成の順序等に工夫が必要である。選手やコーチには、各技の承認要求を再度確認していただくとともに、もし、承認要求が満たされなかった場合にどの技として承認されるのかということも熟知していただきたいと感じた。確実に構成要求を満たせるような演技構成を目指してほしい。

演技全体としては指針に沿った体線の美しい、手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技も見られた一方で、膝つま先が伸びない演技、指先まで意識が行き届いていない演技も多く見受けられた。特に技を実施していないときの立ち姿勢、動きの表現、腕の位置や指先までの意識、歩く際の膝つま先、座や横の動きを実施している際のつま先、足を前や後ろに 1 歩出す際の膝・つま先など、常に意識されている演技とそうでない演技との差が明確であった。膝・つま先・立ち姿勢・とう立ち、美しさに欠ける選手も多く、今後は立ち姿勢を基本とした美しさの強化は必須だと感じた。また、選手の中で無意識に肩が上がってしまい、首筋、胸の表現まで伝わらない選手も多く見受けられた。先ずは、選手の立ち姿勢は美しいか、今一度見直してほしい。もし美しさに欠ける姿勢であれば、姿勢の修正をしつつ D スコア E スコアともに上げていけるように頑張してほしい。

また、アクロバット系やダンス系に行く前の調整が多く、減点の対象になった。調整が多いと演技全体の流れやリズム不良にも繋がるので、多くの選手は修正していく必要があると感じた。ただ、技を上手く実施することだけではなく、演技全体の流れやリズム、しなやかさ、技と動きの融合を追求していく必要があると感じる。特に平均台は、立ち姿勢や歩く姿勢の美しさ、足のライン等、目立ちやすい種目であるため、高いDスコアを目指して技の難度を上げていくことも重要であるが、それと共に美しい姿勢の追求やダンス系の技の正確な実施も重要視されていることを念頭に置いてほしい。

4. まとめ

平均台の演技において、立ち姿勢を基本とした動きから、より芸術性観点を強化していく必要があるのではないかと考える。多くの選手は技に精一杯で動きや繋ぎといった部分まで、まだまだ意識がいき届いていないのが現状であり、自分の演技を表現すること、魅せる演技をすることといった選手自身の意識づけが重要であり、価値の高い技や技術ばかりにとらわれず、動きの部分や要素の前後の繋ぎといった個所も時間を費やす必要があると考える。基本となる美しい姿勢を作り、そこから繰り出されるアクロバット系やダンス系要素、構成・振り付けにおいて、演技は常に芸術的運動の理想像を追い求めたい。日常の練習では、技の技術を追求し、習得することは必要不可欠であるが、芸術性・美しさの追求といった面に、より時間を費やす必要があるのではないかと考える。、芸術性の高い・美しい演技を目指してより効果が上がるよう、日々のトレーニングに繋げていってほしいと思う。

C 2 ゆか

D 1 審判員 高橋洋子

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 採点指針の確認

体操競技情報 31 号に記載されているゆかの採点指針 4 項目を確認し、ゆかの演技に何が求められるのかを理解したうえで演技全体の理想像を持ち、指針に沿った演技とそうでない演技との差を E スコアにて明確に表すことを確認した。技以外の部分にも注視し、立ち姿勢が悪い、膝が伸びない、足がゆかから離れた時につま先を伸ばす意識ができていない演技に対しては変更規則 I で減点幅を大きくしている芸術性と構成の減点「身体の姿勢が悪い -0.10/0.30」「つま先が伸びない/足が緩む/足が内向き -0.10/0.30」の減点項目に則り厳密に減点することを確認した。

(2) アシスタントの任務の確認

計時・線審の任務内容を確認し、コーチから減点の再確認の要求があった際に速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

(1) 得点の修正について

- ・得点表示後にセクレタリーの入力ミスが発覚したため、修正をしたのが 4 件。

- ・前の選手のライン減点を重ねて減点してしまったため、修正をしたのが1件。コーチからの再確認の要求により発覚した。

(2) 音楽に関するトラブルについて

- ・第1アクロラインを実施後に音楽が止まったが、選手は演技を続けたので規則通りで特に問題はなかった。
- ・音楽のUSBが読み込めず曲が流れなかったり、まだ最初のポーズをとっていないのに曲が流れてしまったり、違う選手の曲が流れてしまうことがあった。すべて一度演技面の外に出てもらい、確認後に旗をあげ直して演技を始めた。

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会、予選で実施された全257演技のうち(0.00の演技は除く)、8.00以上のEスコアを獲得できたのは15演技で全体の約6%、7.5以上8.00未満が28演技で約11%、7.00以上7.5未満が49演技で約19%、7.00未満が165演技で約64%でした。全体的に技の正確さに欠ける演技、身体の姿勢の美しさに欠ける演技が非常に多かったように思います。採点をしていて最も気になったことは、技以外の部分まで身体の姿勢や膝つま先の意識ができていない選手が非常に少なかったことです。例えば歩く時やコーナーで片足を上げた時、ゆかに接する動きを行っているとき、そこから立ち上がる時など、細かいところまで美しく見せる意識ができていないように感じました。身体にはりがなく姿勢が悪かったり、膝つま先のラインが美しくない演技では、たとえ振り付けの工夫がされていたり表情まで意識して動いていたとしても芸術的な演技にはつながりません。足がゆかから離れたらつま先を伸ばすこと、膝を伸ばすことなどは体操競技の基本です。選手・コーチのみなさまには美しさに対する意識をより高く持っていただきたいと感じました。

そしてもう1点、演技構成に関する内容になりますが、「演技の開始ただちにアクロラインを始める」「アクロラインの後、間に振り付けがなく同じ対角線上で続けてアクロラインを実施する」「アクロバット系の技で演技を終了させる」「コーナーでの振り付けの多様性に欠ける(各コーナーでの脚の姿勢が異なっていない)」「調整(振り付けのない踏み出し)」などの減点項目にあてはまる演技が多かったように思います。これらは選手・コーチのみなさまがルールを把握し、そのルールに沿った演技を作っていれば避けられる減点です。そのような部分で減点されてしまうのは非常にもったいないと感じますので今後の大会に向けてぜひ修正していただきたいと思います。

以上